



渡辺市長に提言書を手渡す石田座長

# 市民文化のすすめ

## 文化懇談会が提言

### 中心は3つの柱

市は、「生産と生活が調和する産業文化都市」をめざし、文化振興の基本方策を求めため、昭和54年9月「富士市民文化懇談会」を設置しました。

この文化懇談会は、石田潔氏を座長として発足以来、2カ年にわたり、討議を重ねてきました。

その結果、9月8日「市民文化のすすめ」と題し、3本の柱とその具体的方策20項目を渡辺市長に提言しました。

市はこの提言を、市民文化の方向を示すものとして受けとめ産業文化都市づくりをさらに進めます。

提言の主な点は次のとおりです。

### 富士山を基点とする都市づくり

◎まちに魅力とゆとりを  
(文化公園) 広見公園を先例として、野外音楽堂、野外劇場、彫刻の森、美術館など、計画的な配置を。

(堤の並木・周遊道など) 大きな川を利用し、四季を通じて緑と花と水にふれあえる「堤の並木」や「チビッコ広場」さらに周遊道やサイクリングロードの整備を。

◎まちをきれいにする運動 市民ひとりひとりの自発性を出発点に広く市民団体、民間企業、行政機関が役割分担のもとに地域ぐるみで推進を。

◎モデル地区の設定 自然と人為と歴史が融合した都市美を形成するよう、その具体的な方策として、モデル地区の設定を。

◎公共施設に文化の香りを 公共施設は、画一的な方法によるだけでなく豊かな個性美と創造美にも配慮を。

◎富士山に映ろう景勝地の選定 仮称「富士十景」として選定、美しい富士の再認識を。

◎「ほたるの里」「鈴虫の里」づくり 身近かな自然に親しむ機会を地域の人たちの工夫と努力で。

### 文化振興の礎をつくるために

◎市民文化綱領の策定 市民に共通

ところで放送が聞こえるようになっています。

市は災害時に備えて、停電のときも放送できる非常電源取付工事を随時行っています。

特に避難場所や津波の危険がある海岸地域を中心に、今年度中には、172ヵ所に取付けが終る予定です。

なお、お近くの広報塔からの放送が聞えなくなったり、雑音がでているなど異常のある場合はご連絡ください。

(市広報広聴課)



### 停電時の広報無線は

(おたずねします) 9月1日の防災訓練には私も参加しました。天気がよく訓練は順調に進められ

ましたし、市役所からの広報無線による情報も聞こえました。

しかし、地震や台風で停電したら市役所からの情報はどうなるのでしょうか。お知らせください。

(一市民)

(おこたえします) 地震や台風るとき停電すると情報はどうなるのか?市民のみなさんが心配するのは当然だと思います。

市内には、現在225ヵ所の広報無線受信局があり、市内のほぼ8割の